第１回検討委員会における
防衛大臣冒頭発言（6/17（水））

会議の開催に当たり、一言申し上げます。

防衛大臣に就任して以来繰り返しお伝えしておりますが、国民の皆様の命と平和な暮らしを守り抜くこと。我が国の領土・領海・領空を断固として守り抜くこと。さらに、それらの任務に当たる自衛隊員一人ひとりとその御家族を守り抜くことは私に課された至上命題であると胸に刻んでいます。

その決意の下、処遇の改善、生活・勤務環境の改善等に邁進してきました。

そして、防衛省・自衛隊を「世界で最も人を大切にする組織」へと変革することが必要であると考え、全国の部隊を視察する際には、現地の隊員及びその御家族の皆様との意見交換の場を設けていただき、現場の声を聞き、それを一つ一つ形にするということを大切にしてきました。

その中で、自衛隊員という職業を選択し続けてもらうためには、現職の自衛隊員の処遇改善はもちろんのこと、退職した自衛隊員や御家族の皆様も誇りをもって、胸を張って、そして安心して人生を全うできる環境を構築していくことが必要であるとの思いに至りました。

諸外国を見ると、国防の任務を全うした退役軍人のために、独立の省や専門の庁・局を設置し、様々な支援を提供しています。例えば、アメリカは、退役軍人省を設置して、収入等が一定以下の者への年金、障害補償、遺族補償といった様々な給付、医療、福利厚生などのサービスを提供しています。この退役軍人省は戦争省に次いで連邦政府で二番目の規

模となっています。オーストラリアや韓国も独立した省を持っています。我が国も、国を守るという崇高な任務を全うした自衛隊員に対して、また、自衛隊員を平素から支える御家族の皆様に対して報いることができるよう、支援や体制の強化を、いわば「退職自衛隊員・家族支援庁」のような組織を作ることも含め、検討していく必要があると考えています。

先週、自衛隊家族会・隊友会の皆様との意見交換も行いましたが、その中でも、退職した自衛官や御家族への更なる支援をするための新たな組織や司令塔機能の立ち上げを含む要望を頂いているところです。昨日の自衛隊家族会の創立５０周年記念祝賀会においても、増田会長から隊員の御家族を支えるための防衛省・自衛隊の組織の充実について強いお言葉を頂き、私をヘッドに支援や体制の強化に向けて検討していくことをお約束いたしました。

こうした状況を踏まえ、退職自衛隊員・家族に対する支援の強化に関する検討委員会を立ち上げ、本日第１回を開催することといたしました。

各位におかれては、これまでにないスピード感で積極果敢に議論をおこない、予算要求に向けて検討を深化していくようお願いします。